

講義名	基礎知識(歴史)		
科目区分	教養基礎		
担当教員	小野 達哉/辻 美代/藤原 喜美子		
開講期・曜日・時限	後期集中 その他 その他	授業形態	
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース/2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース/2018年度 人間社会学部 人間健康学科/2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース/2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース/2018年度 人間社会学部 観光学科/		
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
<p>20世紀は、それまでの歴史とは比較にならない2つの世界大戦を始めとする幾多の戦争があった。21世紀に入った現在もそのような時代を引きずっているようである。そして、こういえるのは、20世紀以前の歴史を学び知っているからである。そもそも歴史を学び知るということは、未来の動向も探り得るように、我々の生きている現在の社会・経済・政治・文化等の動向をできるだけ的確に知るためである。この講義では、古代から現代までの歴史(日本史・アジア史・西洋史)を、それぞれの地域のそれぞれの時代の特性が分かるように概観する。</p> <p>また、この講義は「教養基礎」としての性格から、高校で学んだ日本史・世界史から「教養展開」の日本史・アジア史・西洋史・現代世界史の各講義への橋渡しの役割を持つものである。</p>

到達目標
<p>歴史に関する基礎が復習でき、就職試験のための知識を身につけることができる。</p>

提出課題
<p>各回の講義で学んだ内容は、テストまたはレポートとして提出してもらおう。</p>

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック
<p>授業に書いてもらう感想文やレポートの内容は、提出後に次の回の授業などで紹介する。</p>

評価の基準
<p>成績は、各時間に行うテストまたはレポートを集計し、100点満点で評価する。評価の配分は、アジア史30点(辻)、西洋史30点(小野)、日本史40点(藤原)とする。</p>

履修にあたっての注意・助言他
<p>安易な気持ちで講義に出るのではなく、その都度の講義の内容をしっかりと聞き、その場で理解し、その都度の講義の内容は、いつ試験があっても出来るようにきちんと覚えるように復習する。なお、それぞれの基礎となる事柄は、プリントとして手渡すので、講義で触れないことでも、プリントに書かれていることは講義の内容として試験の対象となる事を忘れないこと。</p>

教科書
<p><教科書> 講義はプリントを中心に、テキストは使用しない。</p>

プリント資料及び参考文献
<p><プリント資料及び参考文献> 必要に応じて講義の展開の過程で提示することもあるが、高校の世界史・日本史の教科書は重要な参考文献となる。</p>

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. アジアの古代(辻) 2. アジアの中世(辻) 3. アジアの近代(辻) 4. アジアの現代①(辻) 5. アジアの現代②(辻) 6. 古代ヨーロッパ(小野) 7. 中世ヨーロッパ(小野) 8. 近代ヨーロッパ(小野) 9. 現代ヨーロッパ①(小野) 10. 現代ヨーロッパ②(小野) 11. 日本における古代(藤原) 12. 日本における中世(藤原) 13. 日本における近世(藤原) 14. 日本における近代(藤原) 15. 日本における現代(藤原)

授業形態(アクティブ・ラーニング)
<p>ア：PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="radio"/> イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)</p> <p>ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p>エ：グループワーク</p> <p>オ：プレゼンテーション</p> <p>カ：実習、フィールドワーク</p>

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>この講義は、3名の教員によってオムニバス方式で実施する。予習と復習については、講義時に各教員から指示がある。全体としては、高校の世界史や日本史の教科書など、各自が興味のある分野から読んでもらいたい。授業中、詳細を話すことができない範囲もあるので、授業の後も配布資料の内容をしっかりと読み、分からない言葉があれば辞書などで調べてもらいたい(予習・復習：約2時間)。</p>

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
<p>この講義は、プリントや板書を用いた講義の形式で進める。また、受講生からの質問があれば、授業中にその都度、話を聞き、質問に対して答える。</p>

実務経験の有無及び活用
<p>実務経験あり。歴史の分野に関わる現地調査や文化財保護業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用して授業を行う。</p>

備考
<p>この講義は、3名の教員によってオムニバス方式で実施する。</p>